

『死ぬるんなら、死んでみよ』とかマカシて俺を突き落そうとする。

俺は跳ね飛ばした。

『よし馬鹿な真似をするな、俺を試す前に、己れを試せ』

俺は憤激した。

それでも毛布とバスケットを提げる事を忘れないで客車の方へ向つた。

聯結臺を渡る時、後ろから追ひ縋つてくれば、線路へ突き落す考へだつた。

俺は大ビラに傲然と、客車の中を大またに歩いた。

中から扉の曲つた金具を廻しておいて、二人の奴が這入れない様にして置いて次の客車に進む。

聯結臺を渡る時ヒヨロ／＼して風に吹き飛ばされるとあぶない。

乗客は寝ポケ眼をコスツて、何事が起つたのかと息をヒソメてゐる奴もある。

さながら俺はピストル強盜か憲兵のやうだ。

『金具を廻して開けたりすると、汽車の窓から放り棄てるぞ。

誰かれの用捨ない』